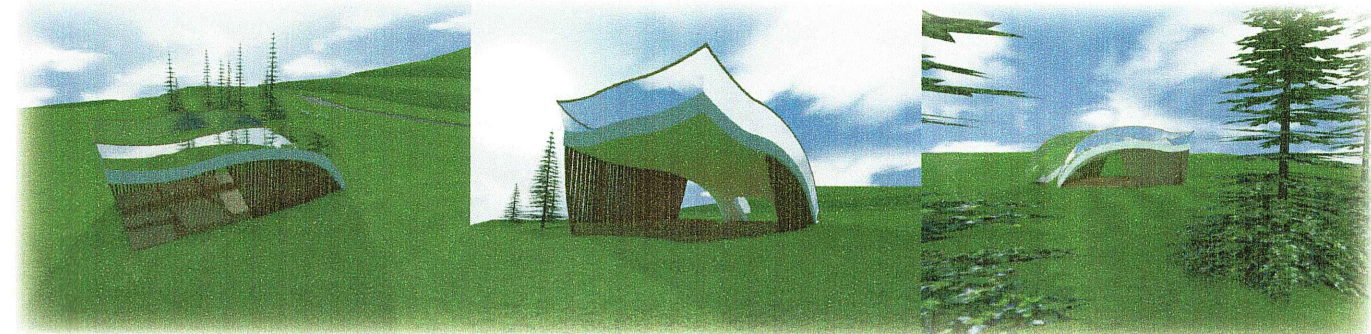


カモフラージュ～隆起する大地～



◆計画地について

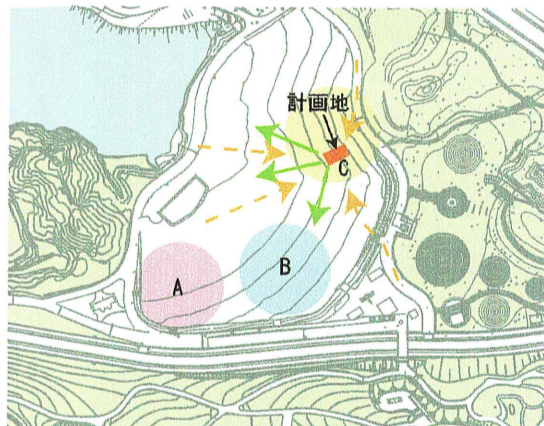
大芝生広場には自然地形特有のポテンシャルの高さを感じた。現地調査に訪れた時、この日は祝日でさんまつり2019が開催されていたこともあり、大芝生広場も大勢の人々で溢れかえており、賑やかな印象を感じた。家族でピクニック、かけっこやボール遊びをする子供達などで広場一杯に人々が見られた。自分自身も大芝生広場の中に入り、気になるポイントに行き、それぞれの居心地を感じてみることにした。配置図のABCポイントで調査し、最終的にCポイントに計画することにした。Cポイントを選んだ理由としてはABに比べて見晴らし、明るさ、落ち着きの良さや動線的にも多方向からもアクセスしやすく休憩の場としては相応しいと感じCポイントに計画した。

◆コンセプト

大芝生広場の隆起する自然地形に溶け込んだデザインを心掛けた。特徴としては自然に馴染むように地面から生えてきたかのような形状のスラブは屋根と床となっていてシンプルな見た目である。シンプルにしたのは建設コストや周りの風景を壊さないように目立たないようにしたかったからである。又、この休憩場は全体的に曲線を活かしたデザインにしている。理由としては人工的な直線的なものより自然な曲線美を施すことで広場に自然と溶け込み、人々を自然の一部になった気分させリラックス出来る憩いの場にしたいと思ったからである。使われ方としては1階のウッドテラスでは休憩や読書や将棋などのミニゲームなどに使ってもらい公園客同士のコミュニケーションの場となる。屋上の休憩場は天気の良い日には展望台や昼寝や読書に使うことが出来る。そして、この休憩場を計画するにあたって気を付けたのは全体的にデザインだけではなく機能性を豊かにすることで居心地良く人々に愛される休憩の場となる事を考え設計した。

◆大芝生広場の活用

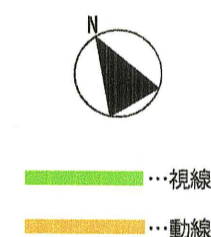
大芝生広場の活用については、やはり広場の持つ自然豊かな地形を活かしていくべきである。今回の休憩場計画自体、この地形の持つ魅力を引き出せるように心掛けた。なので広場全体もこの地形を活かした活動をしていくべきである。例えば、この広場は全体が芝生なのでグラススキーやそりなどといった専用競技施設化することでこの広場でしか出来ない限定的な場となり、集中してこの場に人々が集まり賑わうのではないだろうか。具体例としては蜻蛉池公園では禁止されているBMXやスケートボードなどの専用パークがある。私自身も自転車競技をしてきて練習や楽しめる施設が身近にあったらと思うことを幾多と感じてきた。なのでこのような専用競技施設を作ることで他地域からも人々が訪れ、1年を通し、人々に賑わい蜻蛉池公園のPRにもなるだろう。又、BMXやスケートボードなどのオリンピック競技にも参入してきているようなマイナースポーツの専用競技施設があることで岸和田、蜻蛉池公園から未来のオリンピック選手が輩出される可能性も感じられる。しかし、BMXやスケートボードなどのマイナースポーツは危険が付き物なので地域の人々の理解も得て協力し合っていくことで大芝生広場の活性化に繋がっていくのではないだろうか。



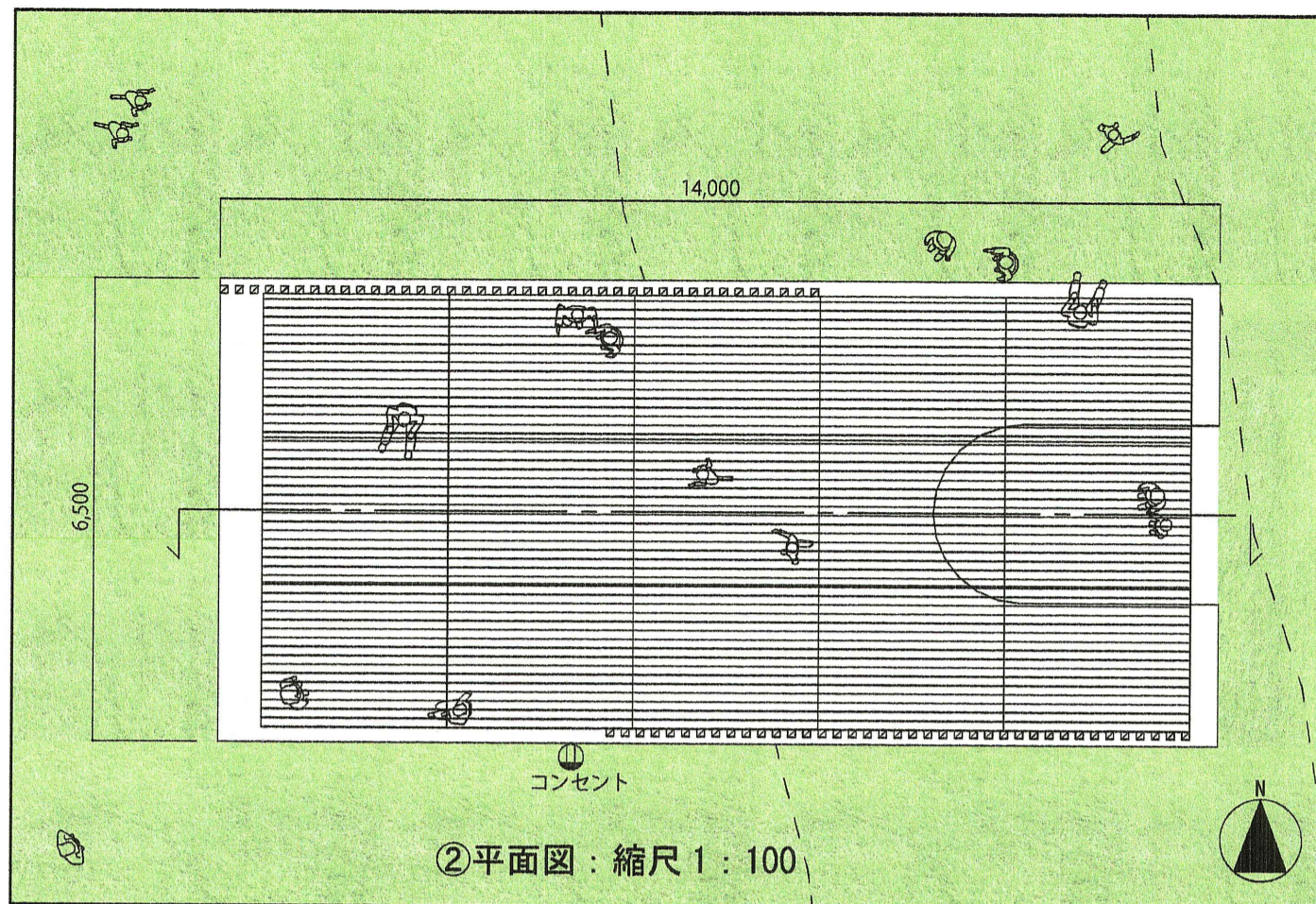
①配置図：縮尺 1 : 5000

イメージパース・各説明①～⑫

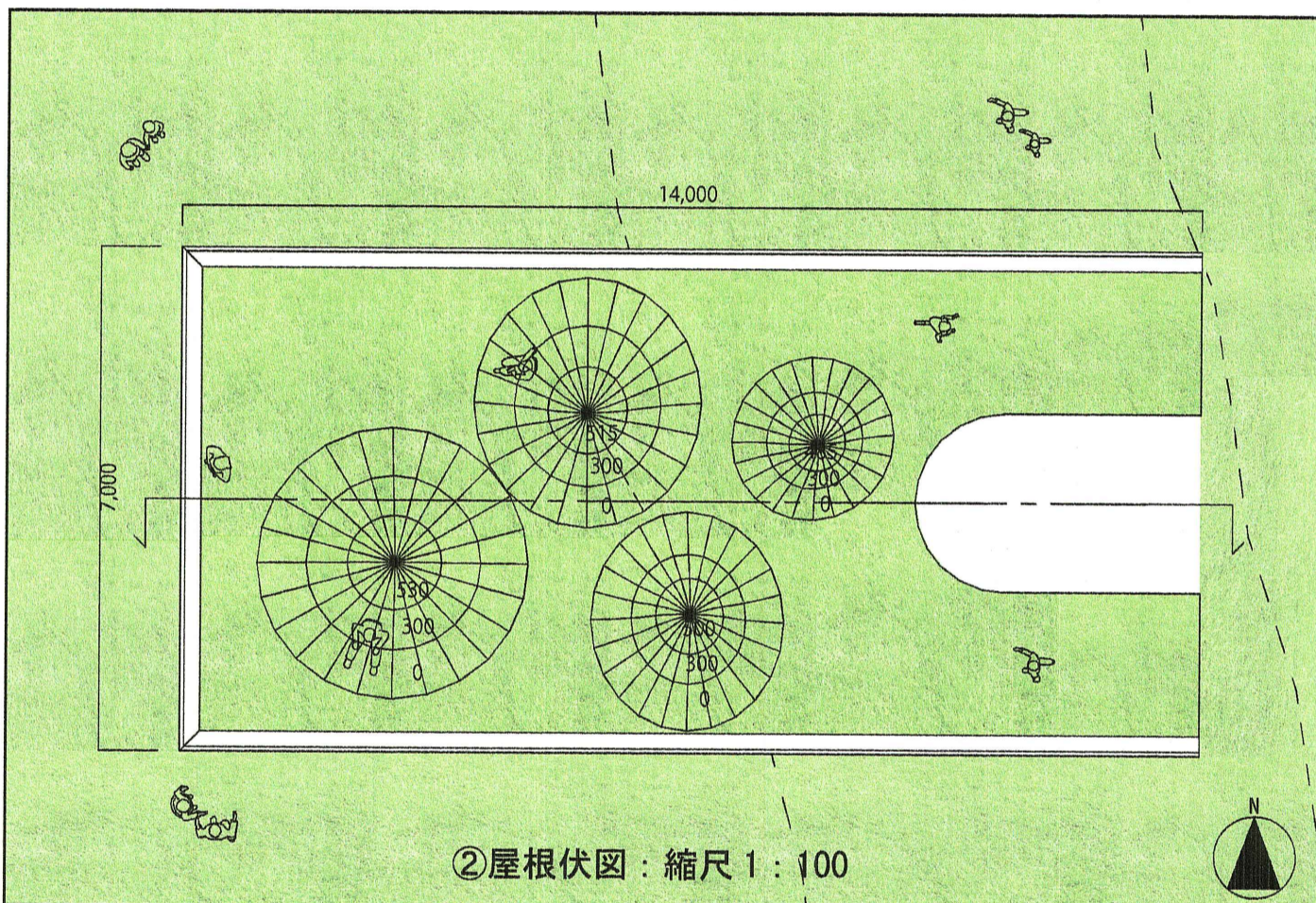
- BMXやスケートボードなどの専用競技施設のある公園事例（大阪府）
- ・深北緑地公園…大東市 スケートボード、インライン、BMX
 - ・大泉緑地公園…堺市 スケートボード、インライン、BMX
 - ・原池公園…堺市 スケートボード、インライン
 - ・今池公園…岸和田市 スケートボード、インライン
 - ・永楽ゆめの森公園…泉南群熊取町 スケートボード、インライン



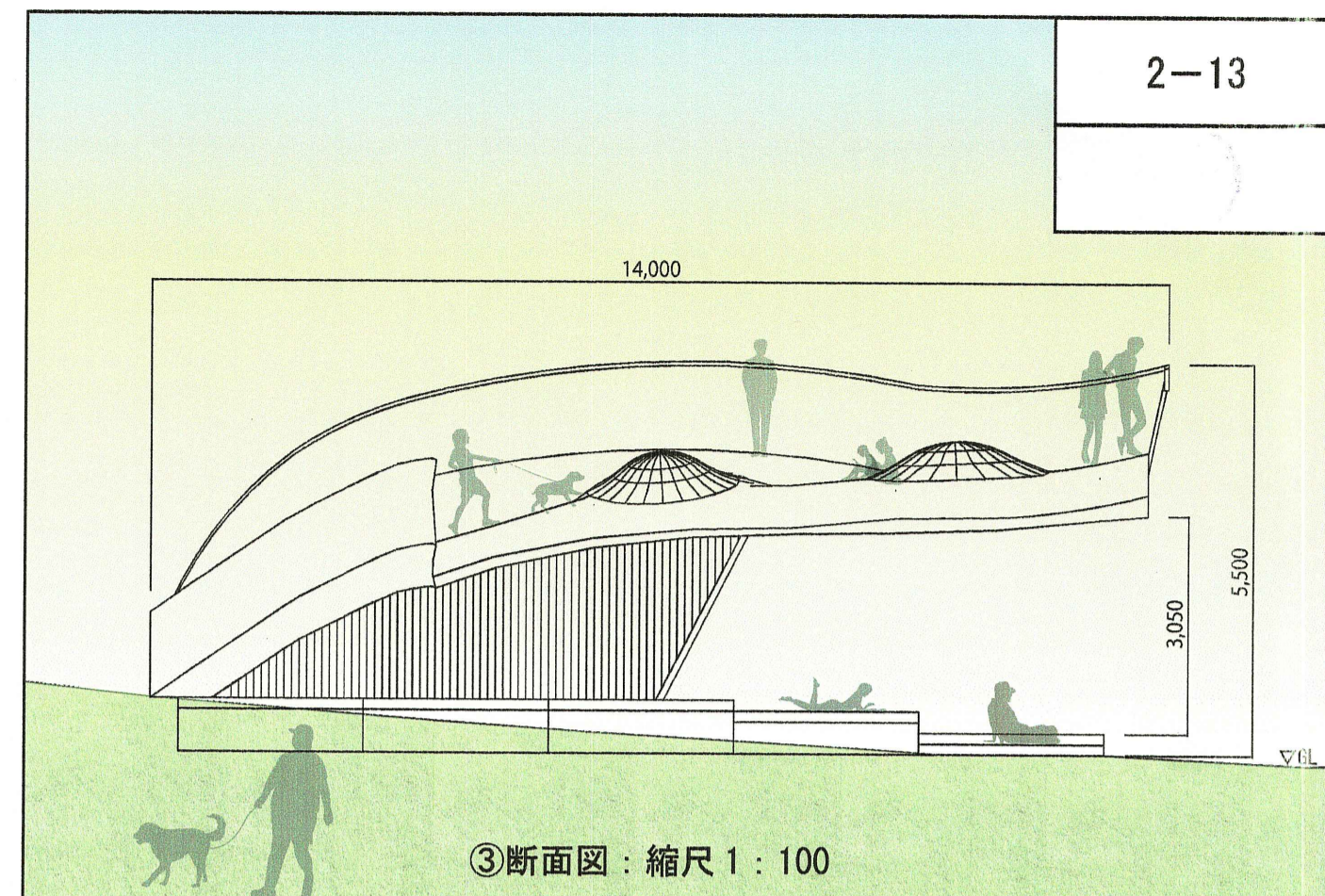
敷地面積	約 23000 m ²
建築面積	7 × 14 = 98 m ²
構造	鉄筋コンクリート造、補強（木柱）
仕上げ	コンクリート打ち放し



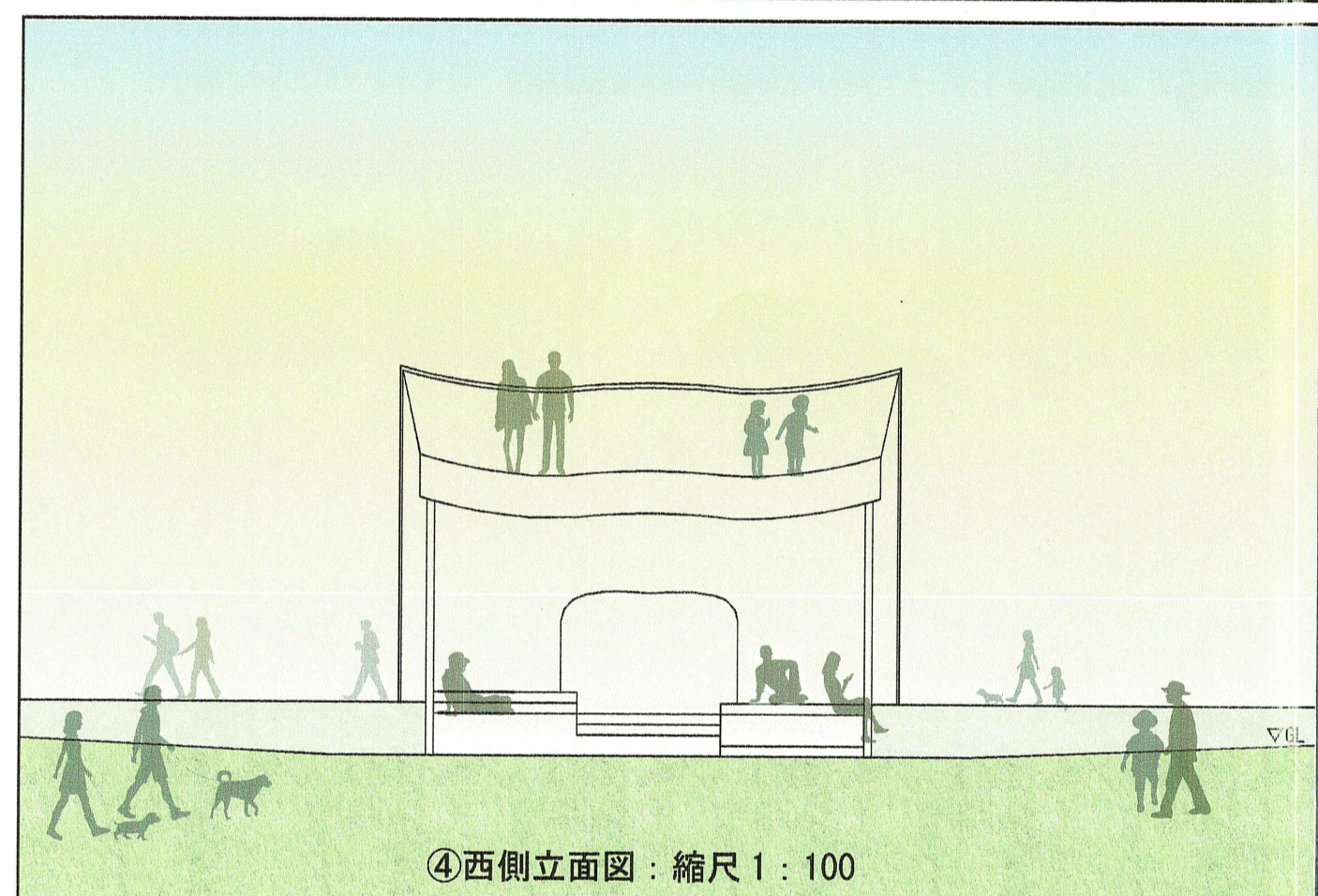
②平面図：縮尺 1 : 100



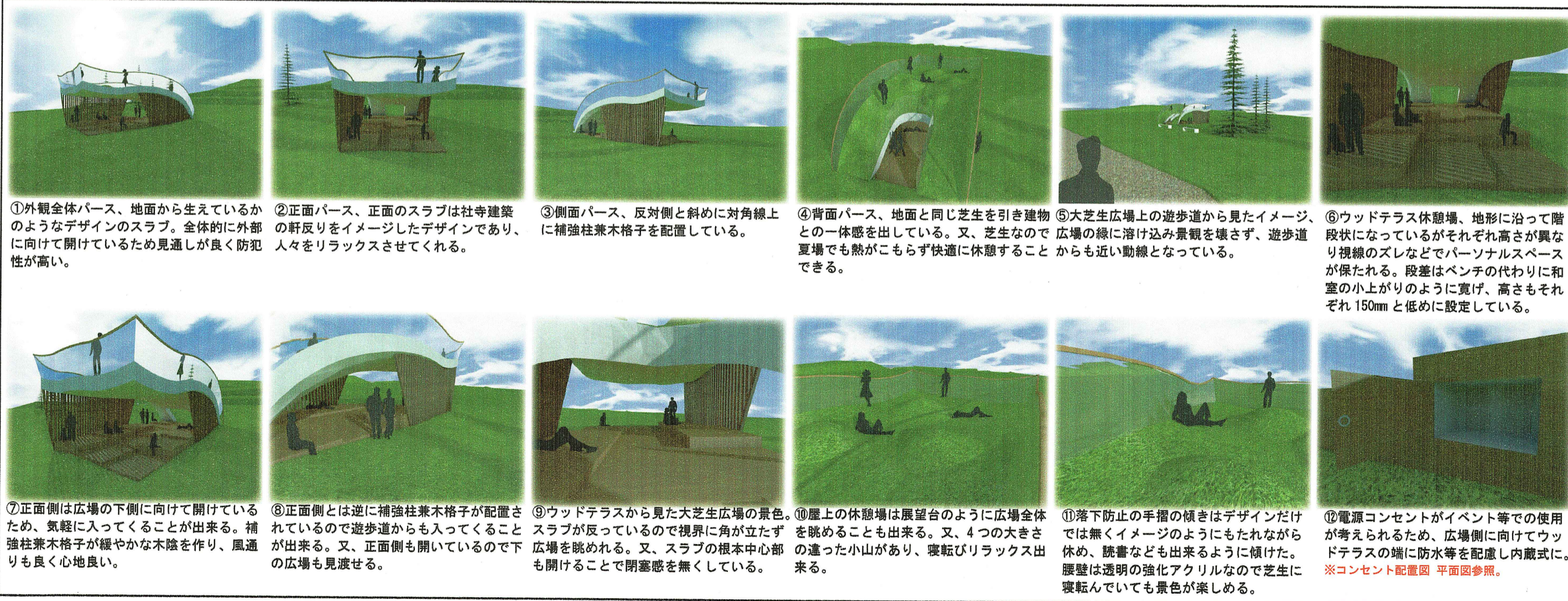
②屋根伏図：縮尺 1 : 100



③断面図：縮尺 1 : 100



④西側立面図：縮尺 1 : 100



①外観全体パース、地面から生えているかのようなデザインのスラブ。全体的に外部に向けて開けているため見通しが良く防犯性が高い。

②正面パース、正面のスラブは社寺建築の軒反りをイメージしたデザインであり、人々をリラックスさせてくれる。

③側面パース、反対側と斜めに対角線上に補強柱兼木格子を配置している。

④背面パース、地面と同じ芝生を引き建物との一体感を出している。又、芝生なので広場の緑に溶け込み景観を壊さず、遊歩道夏場でも熱がこもらず快適に休憩することから近い動線となっている。

⑤大芝生広場上の遊歩道から見たイメージ、との一体感を出している。又、芝生なので広場の緑に溶け込み景観を壊さず、遊歩道夏場でも熱がこもらず快適に休憩することから近い動線となっている。

⑥ウッドテラス休憩場、地形に沿って階段状になっているがそれぞれ高さが異なり視線のズレなどでパーソナルスペースが保たれる。段差はベンチの代わりに和室の小上がりのように寛げ、高さもそれぞれ150mmと低めに設定している。

⑦正面側は広場の下側に向けて開けているため、気軽に入ってくる事が出来る。補強柱兼木格子が緩やかな木陰を作り、風通りも良く心地良い。

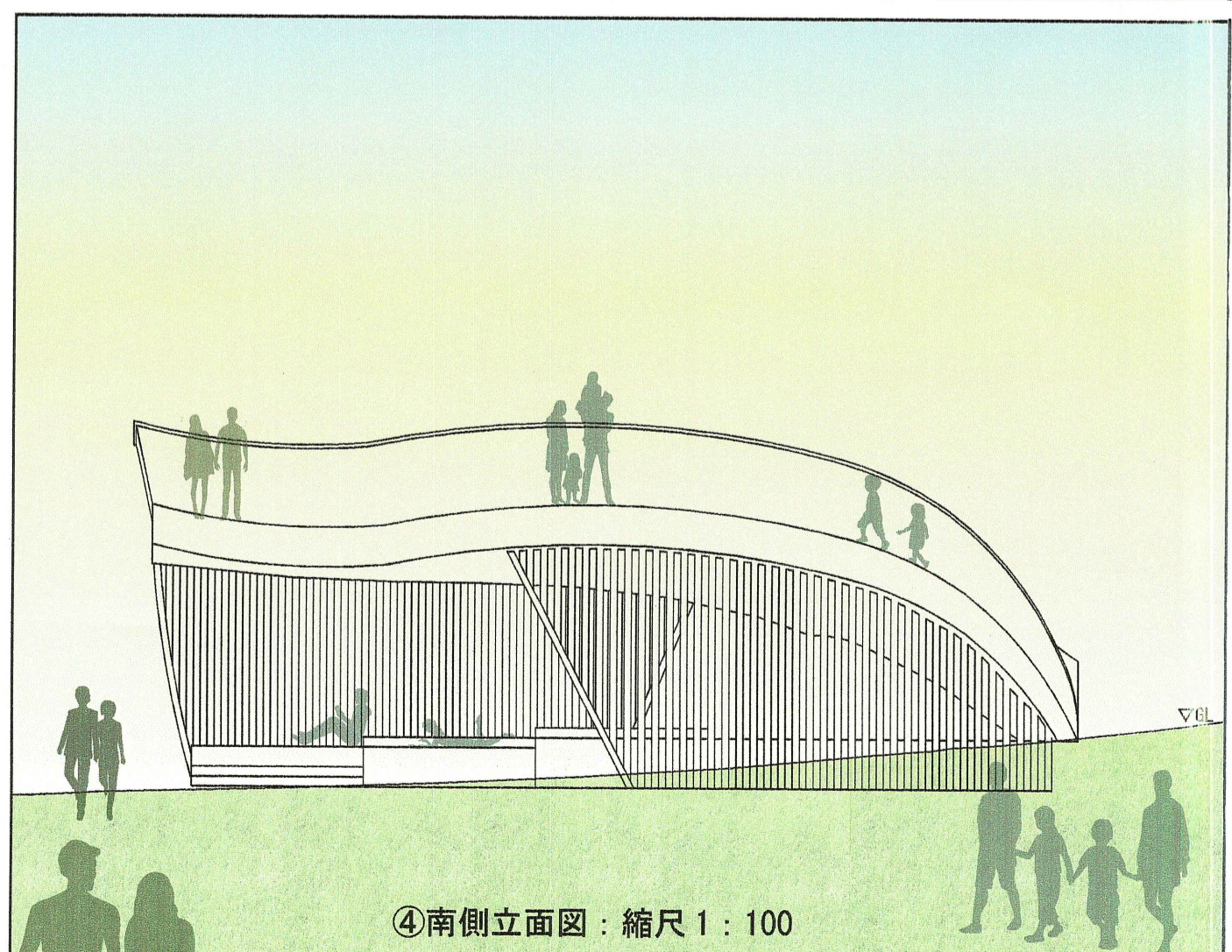
⑧正面側とは逆に補強柱兼木格子が配置されているので遊歩道からも入ってくる事が出来る。又、正面側も開いているので下の広場も見渡せる。

⑨ウッドテラスから見た大芝生広場の景色。スラブが反っているため視界に角が立たず広場を眺められる。又、スラブの根本中心部も開けることで閉塞感を無くしている。

⑩屋上の休憩場は展望台のように広場全体を眺めることも出来る。又、4つの大きさの違った小山があり、寝転びリラックス出来る。

⑪落下防止の手摺の傾きはデザインだけでは無くイメージのようにもたれながら休め、読書なども出来るように傾けた。腰壁は透明の強化アクリルなので芝生に寝転んでも景色が楽しめる。

⑫電源コンセントがイベント等での使用が考えられるため、広場側に向けてウッドテラスの端に防水等を配慮し内蔵式。※コンセント配置図 平面図参照。



④南側立面図：縮尺 1 : 100